

議事録

会議等の名称	令和 7 年度 第 1 回東御市病院等運営協議会	開催日時	令和 7 年 6 月 23 日 (月) 13 時～15 時
		場 所	市民病院 2 階研修室
主催者(事務局)	東御市民病院	司会者	井出事務長
出席者	○委員 武藤会長、鮎沢副会長、齊藤委員、小林委員、滝澤委員、花岡委員、酒井委員、星山委員、宮下委員、森野委員 ○市（事務局） 花岡市長、田丸副市長、岩橋院長、金井部長、中沢部長、齋藤診療所長、藤沢助産所長、井出事務長、大塚医療事務部長、渡辺副主幹、酒井主査 ○市（健康推進課） 柳澤保健地域医療係長		
欠席者			
討議内容及び経過	(発言者名)	(発言内容)	
委嘱書の交付		花岡市長から委嘱書の交付	
市長あいさつ	市長		
委員自己紹介			
協議会の役割	事務長		
会長・副会長選任		会長：武藤委員 副会長：鮎沢委員	
報告事項 (1) 令和 6 年度病院事業の実施状況について	委員	基準外繰入 1 億 8 千万円は当初からの計画か。	
	事務長	計画では 1 億円を繰り入れれば、概ね収支均衡になる予定だったが、人件費の増や物価高騰により支出が多くなったことから、市側の財政部局等とも協議し、8 千万円余計に繰入を行った。	
	委員	今回コロナ病床確保の補助金がなくなり、今後も補助がないため、同程度の赤字となる見込みか。	

	市長	公立病院、大規模な病院も含め、日本全体で6割を超える病院が赤字に突入した。コロナ後の診療改定が病院経営を圧迫しており、このままでは地域医療がつぶれるということで、全国市長会としては、2年に1度である診療改定の前倒しと内容精査を要望している。このままでは毎年赤字となるが、その状況自体を変えていくという動きが日本全体に出てきており、今回は東御市民病院だけの問題ではないようだという状況。
	委員	電子カルテの運用が本格化する中において、カルテ上のデータが市民病院と診療所で照合が取れるように検討しながら進めていただければと思う。
	診療所長	現時点で既に同じ電子カルテを使用している。以前は市民病院への紹介は、他の病院に紹介するのと同じくらい一からの紹介だったが、今は市民病院と診療所で診療内容を共有できているので、スムーズに市民病院へ入院をお願いできるようになっている。逆に市民病院に入院されていて、訪問診療開始といった場合にも非常にスムーズに移行できる。
	委員	電子カルテ更新の計画を教えてください。
	事務局	電子カルテの耐用年数は5年だが、今のものは平成31年度から稼働しているため、7年経過している。来年度更新する予定で、予算も債務負担行為で確保している。
(2) 令和7年度病院事業の方針について	委員	今までにサイバー攻撃を受けたという事例はあるか。
	院長	サイバー攻撃という形のものはないが、毎月第二水曜日の午前中、マイクロソフトのデータのメンテナンスが行われるときに、アクセスが集中することにより、電子カルテが一時的に停止するという状況が3、4か月続いたときがあった。その後、通信回線の見直し等をし、今のところ大丈夫ではあるが、予測外のことが急に起きたことで短時間でも混乱したこともあって、サイバー攻撃という形で故意に攻撃された場合というのは想像しただけでも恐ろしい。新しい電子カルテの選定の中でもそういった点も重視されると思うが、十分な体制は整えなければと認識している。

市長からの諮問	市長	諮問書朗読し、会長へ手渡し（市長退席）
審議事項 （１）東御市病院事業経営強化プランの進捗評価について	副会長	救急受入が多くなったとのことだが、その内訳について、年代別とするとどのような特徴があるか。
	院長	コロナ明け、上田広域でも救急搬送が増えており、その中でも高齢者の救急が多くなっていると言われている。特に高齢者の肺炎、心不全などが増えており、高度救命医療機関でなければ対応できないという救急が増えているわけではない。高齢者のプライマリーな治療については、出来るだけ地域の近いところで行うという体制づくりは今後も求められるだろうと思う。その上で高次機能病院とのしっかりとした連携を組むといういうかたちで、上小医療圏は救急体制が脆弱だと言われていた中で、少しずつ解消する部分が現在見えだしているところかなと感じる。
	会長	標語（評価）の決定について投票によることを提案委員了承
	事務局	投票結果報告（【Ａ】２名、【Ｂ】８名）
	会長	【Ａ】が２名、【Ｂ】が８名ということで、当協議会としては【Ｂ 概ね達成した】の評価としたいがよろしいか。（全委員了承） 附帯意見として、 １ 地域包括ケアシステムの強化を進めるとともに、在宅医療の一層の充実を図られたい。 ２ 地域医療の次世代人材育成の中長期的計画立案とその推進に尽力されたい。 の２点としたいが、補正・追加等あるか。 （補正等意見なし。全委員了承） 事務局へ答申書作成を指示 →（事務局答申書作成、朗読） →（全委員了承）
答申	会長	答申書朗読し、副市長へ手渡し
	副市長	病院側としては一生懸命やってきたが、物価高など外部的な要因で大変厳しい運営が行われた１年であった。委員の皆様から及第点はいただけたと思う。市民の皆様からこういう目で見えていただいているということを励みにして、信頼をいただけるような病院づくりに努めてまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくご指導いただきますようお願いいたします。

その他	委員	昨年受診時、施設内でケータイが不通で家族に心配をかけた。病院内で繋がるような設備をお願いしたい。
	委員	救急体制が充実してきていることは市民にとって安心感。 収益の問題、構造的に赤字になりやすいということはテレビ等の報道や本日の説明で理解した。
	委員	継続的な広報が大切。
	委員	市民病院に対する理解が深まった。病院と介護施設、お互いにとって関係性が深まるとよい。
	健康推進課	医学生奨学金の貸付要件を再検討して募集したところだが、本年4月応募なし。今後、周知方法の工夫を再募集、来年度に向けて検討。
閉会	副会長	